

## (2) 研究の方向

研究主題「未来に向かって、自分らしい生き方を考える子供を育てる」に対して、次の3つの視点から迫っていくこととする。

### ア 自分らしい学びをつくる イ 心をひらく ウ 学びをもとに生き方を考える

#### ア 自分らしい学びをつくる

「自分らしい学びをつくる」とは、子供一人一人が問題に正対し、自分らしい解決方法を模索しながら道を切り拓き、問題を解決できることである。自分の目標に意欲的に向かい、見通しを立て、自分の気持ちを支えながら、自分らしい方法で問題を解決できることである。

ここでは、計画通りに学習が進まなくなったときにでも、簡単に諦めずに追究意欲を持続させ、自分らしい方法で問題を解決し壁を乗り越えていけるような、個性的な学びができる子供の姿が見られるようになることを期待している。

#### イ 心をひらく

子供が、共に生きることの大切さが分かり、個性を発揮しながらも常に人間としての在り方を考え、他者と協調して生活していけるようになるためには、子供一人一人の心が耕され、広く深くなっていくこと、そして他者に対して開かれることが重要である。この心の変容を「心をひらく」とした。従って、「ひらく」には、自分の心を他者に対して開くという意味と、心を耕すという意味を込めている。

具体的には、自分自身を見つめ自己内対話をしたり、他者から自分に関する情報を得たりすることで自分のよさや課題を知り、広く目配りをしながら物事について考えたり、他者に素直に自分の考えを表出したりできるようになることである。そして、独善的で自分勝手な発想や考え方から抜け出し、他者を共感的に理解するとともに、他者の立場を考えた態度や行動がとれるようになることである。

#### ウ 学びをもとに生き方を考える

「学びをもとに生き方を考える」ことは、研究主題に迫る視点のうち、最終的なゴールとして大切にしたい視点である。

「自分らしい生き方」ができるようになるためには、自分の中に「自分らしさ」を確立し、自分の足で自分のペースで歩いていけるようになることが大切である。従って、生き方の基盤である「自分らしさ」が学校の様々な学びの活動を通して醸成されていくことが重要である。

ここでは、学んだことから自分の生き方を考えられるようにすることや、学んだことを生活の場面で生かそうとする態度を育てることに力点を置いていきたい。具体的には、学習する中でかかわった人物の生き方と、これまでの自分の生き方を比較・吟味し、これからの生き方について考えられるようになること、問題解決の方法や知識を様々な場面で生かせるようになること、学んだ考え方を大切に、他の対象に対するかかわり方を考えられるようになることなどを期待している。

## 第2章 今年度の研究の概要

### 1 研究副主題の設定と研究のねらい

研究の第1年次である今年度は、研究主題「未来に向かって、自分らしい生き方を考える子供を育てる」に、具体的な授業の姿を構想することを通して迫っていこうと考え、研究副主題を以下のように設定した。

### 子供が自分の学びを実感し、互いに心が響き合う授業の構想

「自分らしい生き方」を考えられるようになるには、自分にとって心を刺激される事象に出会ったり、学び方や考え方で成長や変容を感じたりすることが重要である。つまり、子供一人一人が自分の学びを実感しているかということが重要なのである。学びを実感するとは、「できた」「やってよかった」「やればできる」「できるようになった」「〇〇が役に立った」「苦しくても逃げないで頑張ったからできたんだ」などの気持ちを味わうことである。授業を通してこのような気持ちを数多く味わうことが、「自分はできるはずだ」「自分にもできそうだ」という自己効力感を持つることにつながっていくのである。

また、「自分らしい生き方」は他者や社会とのかかわりの中で実現していくものである。学校においては、様々な立場の人や友達と交流し合う中で「自分らしさ」が少しずつ醸成され「自分らしい生き方」の基礎がにつくられていくのである。従って、一人一人が実感や本音に基づいて考えを表出するとともに、相手の考え方を認めよさを受け入れられるような、互いに心が響き合う授業にすることが重要なのである。

研究するにあたっては、各教科等において「自分らしい学びをつくる」「心をひらく」「学びをもとに生き方を考える」の3視点から具体的な授業像を構想することを今年度のねらいとして進めることとする。

## 2 今年度の研究内容

### (1) 自分らしい学びをつくる

「自分らしい学びをつくる」とは、子供一人一人が問題に正対し、自分らしい解決方法を模索しながら道を切り拓き、問題を解決できることである。そのためには、子供一人一人の内発的な意欲を高めるためにこだわりを持てるようにすること、子供が学びの実感を味わえるような学習活動を工夫すること、子供の内発的な意欲を高める教師の支援を工夫すること、各教科等の基礎・基本が学びに役立つことを意識付けることが重要であると考え、以下のような授業を構想した。

#### ア こだわりを持てるようにする

内発的な意欲を高めるために、動機づけとして子供が自分の学習に対するこだわりを強く持てるような授業を構想していきたいと考える。こだわりとは、自らが求め実現したい目標のイメージであり、子供がその対象を追究していくときの指針となるものである。故にすぐれて個性的なものであり、こだわりを伴った学びは、切実な問いから出発し、個性的な道筋をたどり、粘り強い追究に結び付く。そして、こだわりがあれば、困難な状況に出会ったり行き詰まったりくじけそうになったりしたときでも、自分を支え、意欲的に学ぶことができるものと考え。

具体的には、子供一人一人が本当にやりたいもの、自分にとって価値あるものが見付かるようにすることを大切にする。そして、子供自身が、いつ、どこで、何を、どんなやり方で学ぶのかを自己決定する場を保障する。従って、例えば、自分にとって価値ある学習問題を見付けたり、追究の計画を立てる段階（プロジェクトの段階）を大切にすることが有効であろう。

また、学習を身近に感じられるように、教材や単元展開において、自分とのかかわりを意識できるようにすることも有効な手立てになると考える。

#### イ 学びの実感を味わえるような学習活動を工夫する

学習を通して、「できた」「やってよかった」「やればできる」「できるようになった」「〇〇が役に立った」「苦しくても逃げないで頑張ったからできたんだ」などの学びの実感が味わえるような工夫をすることが重要である。

そのためには、目標設定を工夫したり、子供の感性を刺激する体験的活動を取り入れたり、環境設定を工夫したりすることを心がけたい。子供は何らかの結果が得られると信じるからこそ自ら活動しようとし、何の結果も得られないと分かると、意欲を失っていくものである。従って、具体的で実現可能な目標を段階的に設定したり、自分が本当にやりたいことに没頭できる場を設定したりして、子供が結果を得、活動の意味を実感できるようにすることが大切な

のである。体験を積むことを通して得た成就感や達成感などの実感だからこそ、「自分にはできるはずだ」という自己効力感が生まれ、自分らしい学びをつくることに結び付いていくのである。

#### ウ 内発的な意欲を高める教師の支援を工夫する

子供の学ぼうとする意欲は、主に内発的な動機づけと外発的な動機づけによって支えられている。勿論内発的な動機づけにより学習を進められることが理想だが、全ての子供がいつも内発的な意欲を高めて学習できるようにすることは難しい。従って、外発的な動機づけとなる教師の支援をうまく取り入れながら意欲を高められるようにすることが必要となる。

具体的には、教師が子供理解に努め、一人一人に寄り添って支援することである。その際、温かく見守っていきながらも、できるだけ自力で頑張れるよう励ますことが重要である。低いレベルで満足している子には、具体的な示唆を与え引き上げてやらねばならない。あまり意欲が見られない子供には、好奇心を刺激したりやりがいや意義を説明したりして、積極的に働きかけなければならない。また、子供が新しい自分の世界を広げられるような課題提示や活動紹介をすることも大切な支援である。そして、活動をふり返り苦しくても頑張れた自分を見つめ直す場を設け、教師が感動を共にするよう心がけたい。

#### エ 各教科等の基礎・基本が学びに役立つことを意識付ける

子供一人一人が自分らしい学びをつくれるようになるためには、各教科等で身に付けた基礎・基本が、自分らしい学びをつくることに役立つことを意識できるようにすることが大切である。

授業を構想するにあたっては、問題を解決する際に、「どの教科等で学んだ」「何を使えばよいのか」を自分自身に問いかけたり、友達と情報交換したり、教師がアドバイスしたりすることが有効であると考え。また、教科等によっては、各教科等で学習したことの有機的な関連が図れるような単元や単元展開の工夫を意図的に構想することも有効であろう。

### (2) 心をひらく

「心をひらく」とは、子供一人一人の心が耕され、広く深くなっていくこと、そして他者に対して開かれることである。具体的には、自己理解を深め、思いやりや謙虚さなどの豊かな心を持ち、広い視野から物事について考えたり、他者に素直に自分の考えを表出したりできるようになることである。そして、他者を共感的に理解し、他者の立場を考えた態度や行動がとれるようになることである。

授業を構想するにあたっては、子供の心がゆさぶられる教材を開発したり活動を工夫したりすること、他者とのかかわりを重視すること、メタ認知的な問いかけにより自己内対話の習慣を身に付けることに留意したい。

#### ア 心がゆさぶられる教材を開発したり活動を工夫したりする

ここで留意したいのは、教材や学習活動の質である。子供の心がゆさぶられ、固定観念が覆されるようなインパクトの強いものになるようにしなければならない。例えば、教材に子供の身近な人物を登場させ、その生き様を学べるようにすることや、子供らしさを思いきり発散できる場を設定するなど、子供がやりがいや生き甲斐を感じて活動できる機会を与えることなどを心がけたい。

#### イ 他者とのかかわりを重視した展開をする

友達との学び合いや様々な立場の人との交流は、コミュニケーションの大切さや社会性や道徳性の基礎を学ぶために有効である。具体的には、他者とのかかわりによって刺激を受け、相手の気持ちを察知して自分の言動をコントロールすることを学べるのである。

授業を構想するにあたっては、学び合い活動を積極的に取り入れ、情報交換や意見交換ができるようにする。その際、内容・活動優先のグループ編成にすること、ポスターセッションや討論会形式を取り入れたり、場合によっては異学年・異学級交流の場を設定したりして活動形態を工夫すること、本音で交流し安易に納得しない学び合いにすること、学び合った後に自分の変容を確認する場を設定するなどの点に留意したい。

また、保護者や地域の人々と豊かにかかわれる場を単元や題材展開上に積極的に位置付け、会話をしたり共に活動したりすることで、様々な立場の人と密にかかわれるようにしたり、人々の生き様（思いや願い、苦勞、努力など）にふれられるようにしたりすることを心がけていきたい。

#### ウ メタ認知的な問いかけをする、自己内対話の習慣化を図る

子供が心をひらくためには、自分を知ることが重要である。各教科等においては、子供自身が自分の学びについて、「何がうまくいったのか」「失敗したのはなぜか」「今度どうすればうまくいくのか」など、メタ認知的な問いかけをして振り返り、メッセージを自分自身に発することを重視する。教師の支援としては、「どんな活動をしたのか」「なぜそうなったのか」「どこを改善すればよいのか」などの言葉をなげかけ、子供が学びの道筋を振り返りやすくなるよう支援することを心がけたい。こうすることにより、自己内対話をする習慣が身に付き、自己理解を深め、自分を出したり抑えたりする判断が徐々にできるようになるものとする。また、このように学習改善を意識しながら学習を進めることは、自分らしい学びをつくるためにも重要であるとする。

#### (3) 学びをもとに生き方を考える

この視点は、研究主題「未来に向かって、自分らしい生き方を考える子供を育てる」に迫る視点のうち、最終的なゴールとして大切にしたいものである。

授業を構想するにあたっては、学んだことから自分の生き方を考えられるようにすることや、学んだことを生活の場面で生かそうとする態度を育てることに力点を置き、生き方を考えることにつながる教材を開発したり、展開や支援を工夫したりすることを重視したいとする。

##### ア 生き方を考えることにつながる教材を開発する

教材については、身近な素材の中から子供がかかわれる「もの」や「こと」を教材化することである。このことにより、今まで気にもとめなかった「もの」や「こと」と自分とのかかわりに気付くことが、自分の世界を広げこれからの生き方を考えることにつながっていくものとする。また、人物の教材化を図ることである。その人物の生き様（願い、苦勞、努力など）に直に接することからこれまでの自分の生き方を振り返り、これからの生き方を考えられるようになるものとする。

##### イ 生き方を考えることにつながる展開や支援を工夫する

単元・題材を展開するにあたっては、自然・社会・生活とかかわりながら学習を進められるようにすることである。このことで、子供が自然の一部として生きていることや社会の中で様々な人に支えられて生活していることを自覚できるようになると考える。

また、学んだことから自分の生き方を考えるには、まず学習対象についてよく理解することができるように、学習対象にたっぴりと浸れる学習活動を工夫したり、自分の生活について振り返りやすいように、生活と関連させながら活動できる展開を工夫したりすることが重要である。

そして、そのような活動を踏まえ、単元や題材のまとめの段階に、学習を通して学んだ知識や技能、考え方、問題解決の方法、対象へのかかわり方などについて具体的に振り返り、生活と関連付けて考える場や互いに意見交換をしながら自分の生き方を見つめ直す場を意図的・計画的に設定することが有効であるとする。

教師の支援としては、「学習を通してどんなことが勉強になったのか」「自分の生き方に参考になるのはどんなことか」などの観点を提示したり、なげかけたりすることを心がけたい。また、学んだことを生かせる場を紹介して意欲付けを図ったり、他の場で学んだことを生かした場合や、生活の中で変容が見られた場合には認め、賞賛したりすることも重要である。